月　日 名前

／100点

【答え】

【小3】国語 文章問題　物語文 3

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

テストの時間に、わたしはけしゴムをわすれたことに気がついた。ふでばこの中をいくらさがしても、見つからない。

算数のテストだった。まちがえた数字を、指でこすってみたけれど、黒くよごれただけだった。むねがどきどきして、問題の文を読んでも頭に入ってこない。

そのとき、となりのせきのはるなちゃんが、自分のけしゴムを半分にちぎって、そっとわたしのつくえにおいた。はるなちゃんとは、同じクラスになってから、まだほとんど話したことがなかった。

わたしは、声を出さずに「ありがとう」と口だけ動かした。はるなちゃんは、前を向いたまま、小さくうなずいた。

テストがおわってから、わたしはけしゴムを返そうとした。でも、はるなちゃんは首をふった。

「それ、あげる。わたしの、まだこんなに大きいから。」

はるなちゃんの手の中のけしゴムは、ちぎったところががたがたで、わたしのとほとんど同じ大きさだった。

家に帰ってから、わたしはその小さなけしゴムを、ふでばこのいちばん大切な場所にしまった。

次の日、わたしは自分から、はるなちゃんに「おはよう」と言った。はるなちゃんは、少しおどろいた顔をして、それから「おはよう」と、わらって返してくれた。

（この問題のための書き下ろし）

問一　はるなちゃんは、どうやってけしゴムをかしてくれましたか。本文から十五字までで書きぬきましょう。

自	分	の	け	し	ゴ	ム	を	半	分
に	ち	ぎ	っ	て					

問二　「わたしの、まだこんなに大きいから」とありますが、ほんとうはどうでしたか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア　はるなちゃんのけしゴムは、わたしのものより、ずっと大きかった。

イ　はるなちゃんのけしゴムも、わたしのとほとんど同じ大きさだった。

ウ　はるなちゃんは、けしゴムを二つ持っていた。

イ

問三　はるなちゃんが「こんなに大きいから」と言ったのは、なぜだと考えられますか。三十五字までで書きましょう。

わ	た	し	が	気	に	せ	ず	に	け
し	ゴ	ム	を	使	え	る	よ	う	に
、	や	さ	し	い	う	そ	を	言	っ
た	か	ら	。						

問四　次の日、わたしは自分からどうしましたか。本文から二十字までで書きぬきましょう。

は	る	な	ち	ゃ	ん	に	「	お	は
よ	う	」	と	言	っ	た			

【小3】国語 文章問題　物語文 3　答えと解説

問一（二十五点）　答え：自分のけしゴムを半分にちぎって

解説：三つ目のまとまりから。そのあと「そっと」つくえにおいたことにも気をつけて読む。

問二（二十五点）　答え：イ

解説：すぐあとの「わたしのとほとんど同じ大きさだった」から。

問三（二十五点）　答えの例：わたしが気にせずにけしゴムを使えるように、やさしいうそを言ったから。

解説：本当は同じ大きさなのに「こんなに大きい」と言ったのは、わたしが「もらってわるい」と思わないようにするため。はるなちゃんのやさしさを読み取る。

採点のポイント：① わたしが気にしないように（気をつかわせないように）　② 本当は同じ大きさなのに、大きいと言った（二つそろって満点、一つなら半分）

問四（二十五点）　答え：はるなちゃんに「おはよう」と言った

解説：さいごのまとまりから。まだほとんど話したことがなかった二人が、けしゴムをきっかけに近づいた。